資料 4
（方針 3-5）

松代文化施設活用ビジョンについて

1 目的

老朽化した真田宝物館のリニューアルと真田邸や旧武家屋敷などの松代文化施設の維持管理・利活用について、官民連携手法（PPP/PFI）の導入可能性を検討し、文化財の確実な保存を前提としながら、民間の企画力・ノウハウを活かした持続可能な運営体制の構築と松代地区全体の観光活性化を図るもの

2 令和7年度 民間活力導入可能性調査結果

（1）調査概要

官民連携手法の実現可能性を検証することを目的として、公募型サウンディング（民間意向調査）を実施した。

① 事前説明会（R7.11.19）
14 社参加／建設・展示・設計・不動産・宿泊・金融・観光等

② 個別対話（R7.12.1～4）
12 社参加／建設・展示・設計・施設管理運営・不動産・宿泊

（2）主な意見

対象	主な意見
共通	● 立地条件・歴史文化資源の集積・静かな雰囲気は歴史文化観光に適しており、複数事業者から高い関心。 ● エリア全体の文化施設活用ビジョン策定と官民の役割分担の整理が必要
真田宝物館	● ビジターセンター機能・体験型展示の充実が重要。 ● 設計～建設～維持管理運営の一体型事業（DBO・PFI）の可能性あり
文化施設利活用	● 高付加価値の文化体験・宿泊等の可能性あり。長期の契約期間確保が重要 ● スモールコンセッションによる事業実施の可能性あり

3 令和8年度以降のスケジュール

令和7年度の民間活力導入可能性調査結果を踏まえ、民間活力導入に向け以下を実施する。

【令和8年度】

① 松代文化施設の将来的な活用の方向性を示す活用ビジョンを策定
② 真田宝物館リニューアル及び松代文化施設活用の方針を検討・決定
③ 最適な官民連携手法の検討・決定

【令和9年度以降】

活用ビジョン・方針に基づき、事業者募集・選定を実施。